



## 創世記 10 章

**8 クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。**

**9 彼は主の前に力ある狩人であった。**

狩人。動物を狩るだけではない。人間を狩るんです。彼は自分のことを神のように考えていました。非常に傲慢な人物ですね。

**10 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シンアルの地にあった。**

バベルは彼の王国、古代バビロニア帝国。

ウルクは今のイラクにあった古代都市。

アッカドは世界最初の楔（くさび）形文字を使った所。

カルネはまだ発見されていませんが、バベル・ウルク・アッカドはユーフラテス川のほとりにあったので、カルネもそうだろうと考えられています。

これら 4 都市に繋がっていたのが、おそらくこの 4 人の墮天使でしょう。

シンアルの地は歴史で習った時はシュメール。シンアルはシュメールです。

世界史の教科書には“人類最古の文明はシュメール”と書いてありますね。

聖書を見ると、実はシュメールよりも前に文明がありました。ありましたが、それらの記録は全部消えてしまったんです。ノアの大洪水があったから。だから、洪水後に最初に成立したのがシュメール文明で、世界最古の文明ということになっていますが、聖書は、それ以前の文明があったと語っています。

## 黙示録 9 章

**15 すると、その時、その日、その月、その年のために用意されていた、四人の御使いが解き放たれた。人間の三分の一を殺すためであった。**

解き放たれたのには目的があります。人間の三分の一を殺すため。

既に黙示録 6 章で第 4 の封印を解いた時、人間の 1/4 が殺されました。

残っていた 3/4 のうちの 1/3 が殺されたらどうなりますか。艱難時代前半の 3 年半で、世界人口が半減するのです。

2022 年の世界人口は 80 億人になると見込まれています。その半分の 40 億人がたった 3 年半で死滅してしまうということが起こるなら、私たちは震え上がるんじゃないですか。

それが起こるのが艱難時代の前半なのです。

しかしどのようにして、そんな大勢の人間が死に絶えてしまうのでしょうか。

**16 騎兵の数は二億で、私はその数を耳にした。**

4 人の御使いは 2 億の騎兵を使って、この時に生きている人類の 1/3 を殺します。

私はその数を耳にした。ヨハネは一々数えていません。

二億はギリシア語の原文では“2 万の 1 万倍”。2 万×1 万=2 億。

その数を耳にした。わざわざ聞いた。信じ難いほどの大きな数字だったからです。

では、この騎兵はどここの国の軍隊なのでしょうか。よく言われるように、中国の人民解放軍のことでしょうか。結論から言うとそれは違います。ここの騎兵は人間の軍隊ではなく悪霊なのです。

聖書は必ず聖書で解釈しなければなりません。私たちの想像力を、勝手に妄想のように広げて解釈して行くと、“ああも読める、こうも読める”で、結局本文が伝えたいことから離れてしまうんですね。

あっさり黙示録をずっと聞いてくださっている皆さんは記憶にあると思いますが、艱難時代の始まりに4つの封印が解かれましたね。その時4人の騎兵が出て来て、それぞれ色の付いた馬にまたがって人馬一体となっていました。1番目が白い馬、2番目が赤い馬、3番目が黒い馬、4番目が青ざめた馬。この人馬一体の騎兵たちによって、最終的に1/4の人間が死滅した。

ここでは4人じゃないんです。2億ですよ。2億の騎兵を指揮するのが4人の墮天使です。

**17 私が幻の中で見た馬と、それに乗っている者たちの様子はこうであった。**

**彼らは、燃えるような赤と紫と硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄が出ていた。**

**18 これら三つの災害、すなわち、彼らの口から出る火と煙と硫黄によって、人間の三分の一が殺された。**

**19 馬の力は口と尾にあつて、その尾は蛇に似て頭を持ち、その頭で害を加えるのである。**

胸当てを着けている者たちが乗っている馬は、全体像は馬、頭は獅子/ライオン、しっぽは蛇。しっぽの先端には蛇の頭のようなものがあり、馬の力は口と尾にあつて、その頭で害を加える。火と煙と硫黄によって、人間の三分の一が殺されたって、そんな生き物います？ いませんよ。

前回申し上げたように、天使は動物と人間が融合した姿で登場することが多いんですね。ケルビムがそうでした。ここでは悪霊です。非常に醜く奇妙な形をした得体の知れない生き物。そんな生き物をこの世界で探すのではなく、動物と人間の融合体として描写され、しかも人間の三分の一を殺した。人を殺す悪霊です。これが人間の軍隊による攻撃なら、人間の兵器によって撃退したり押し返すことができるでしょう。しかし、これは悪霊の攻撃なので、人間はなす術もないのです。

さて、このように悲惨な事が起こっている時、生き残った人間たちは、非常に首をかしげざるを得ない反応をするのです。

**20 これらの災害によって殺されなかった、人間の残り(2/3)の者たちは、悔い改めて自分たちの手で造った物から離れるということせず、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた偶像、すなわち見ることも聞くことも歩くこともできないものを、拝み続けた。**

いきなり世界人口の1/3が死に絶えた。しかもそれを止める術がない。そんな身の毛もよだつ恐るべき現象を見た時、生き残った人たちはそれぞれ自分の宗教にしがみついたんです。

「お願いします。お願いします。」拝みまくるんですね。ですが、真の神/黙示録が語り、黙示録を書かした人類の作者である創造主なる神/イエス・キリストには立ち返らない。

それぞれの宗教にしがみついて拝むのですが、その宗教の背後に悪霊がいるのです。つまり、自分たちを攻撃している悪霊をありがたがって、それにしがみついて拝み倒しているという描写です。なぜこんな事が起こるのでしょう。

今アメリカの大きな問題の1つは、薬物依存の人たちが非常に増えているということです。約2500万人が麻薬中毒／薬物依存症になって、廃人のような生活を送る寸前、そうなってしまっている人たちもいます。その薬物の9割はメキシコから入ってくる。メキシコは自国でも麻薬を作っていますが、中南米の国々は、メキシコを玄関口にしてアメリカに密輸出しているんですね。

アメリカは何としてもメキシコからの密輸を止めたいのですが、メキシコ政府も手を焼くほど麻薬組織の力は強い。麻薬組織／マフィアを撲滅することを公約に挙げて当選した市長は、1週間後に家族全員皆殺しになっている。そんな事が不思議じゃない日常茶飯事の国。それがメキシコでした。

しかし2006年、遂にメキシコ政府が立ち上がり、麻薬戦争の宣言をしたんです。それまでも警察が麻薬マフィアと対決していたけど完全に押されていました。警察が持っている火力よりも、麻薬カルテルやマフィアの方がはるかに強力だったからです。そこで、警察ではなく国軍を使うんです。軍隊／正規軍を使って麻薬組織と戦う。

その時、軍のトップとして陣頭指揮を執りながら麻薬組織に殴り込みを掛けた、泣く子も黙る国防大臣がサルバドル・シエンフエゴス(1948-)。おっそろしい弾圧。というより取締り。取締りなんですけど、まさに組織を吹き飛ばすために、組織の根城がある町そのものを吹き飛ばすような勢いで、思い切り手加減の無い火力を使って、文字通り戦争をやった。多くの麻薬組織を壊滅に追い込んだので、メキシコ国民にとってヒーロー・救世主です。「この人のお陰で治安が回復される！」と下にも置かない、皆から崇拜されるようになったのですが、やがて現役を退いて引退しました。

そうして2年前、家族旅行でアメリカに行き、ロサンゼルス空港に着陸するや否や、アメリカの麻薬取締局によって逮捕されました。実は、彼こそが麻薬組織の真の黒幕だったのです。いや、彼は麻薬組織を片端から壊滅させていたではないか・・・ライバル組織を潰していたにすぎなかったのです。つまり、彼は一人二役。国民の前に出ている時は「私はあなたがたを麻薬組織やマフィアから守ってあげる」ということで崇拜・喝采を浴びている。しかし、組織のバックに回って、しこたま稼いでいたのは彼自身だったのです。

黙示録9章に出て来る悪霊はそれをやっていますね。人類の1/3を殺しまくる。同時に、神頼みしか助かりようがないこんな世界では、この宗教を信じたら、この宗教のご本尊・偶像を拝んだら何とかなるからと、人々の宗教心をたき付けて拝ませる。一人二役ですよ。

そうすることによって、本当に恐れなければならない神／本当の創造主なる神／黙示録を書かした神に立ち返ることができなくなるんです。自分たちが信じて来た宗教にしがみつくとゆえに、黙示録で警告を与えられ、その通りのことが目の前で展開しているにも拘らず、黙示録を書かした神に立ち返るのではなく、悪霊宗教にしがみついたままになってしまう。真の創造主に立ち返ることを悪霊は妨害すると言うのです。なんと悲惨なことか。

そして、最後の節にこう書いてあるんです。

**21 また彼らは、自分たちが行っている殺人、魔術、淫らな行いや盗みを悔い改めなかった。**

悔い改めなかった。これは神の悲痛な叫びです。悔い改めてほしいのにしなかった

彼らは悔い改めようと思えば出来たんです。悔い改めとは直訳すると“考えを変えること”です。彼らは“人間の手で作った宗教や偶像には何の力も無い、人間を造られた神に立ち返るべきなんだ”という福音を、信じようと思えば信じるのができたし、聞こうと思えば聞くのができたんです。

自分たちが行っている殺人。誰を殺していたと思いますか。

この時代に、真の創造主なる神をイエス・キリストによって信じているクリスチャンたちです。ですから、自分たちが迫害している者たちから聞こうと思えば聞けたのですが、その犯罪をやめることなく、しかも、偶像に頭を下げ続けていくことによって心がますます頑なになり、創造主に立ち返ることができなかった。

そのことに神が非常に心を痛めておられるということが、悔い改めなかったという表現に表れているんです。これが第6のラッパです。

今回は第7のラッパの解説をします。ますます時代が厳しくなって行きますが、黙示録は現在世界で起こっていることのひな型。現在世界で行われていることが前兆で、やがてこんな世界が待っているということを語っているんです。そして、この聖書の預言は必ず実現します。聖書預言を通して、この正確な預言を書かした神の存在に気づいていただければ本当に幸いです。

どうぞ、これからも続けてご覧ください。よろしければ、チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。